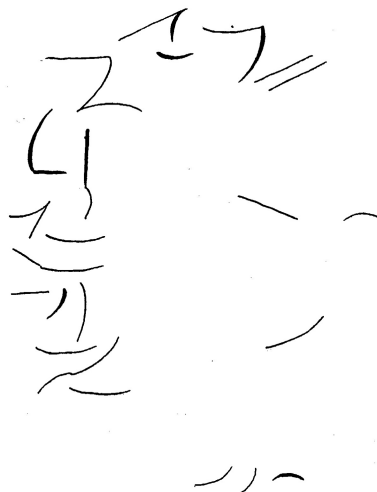




花の色はうつりにけりまいだづらに  
わが身よにかるながめせしまに  
(小野小町)



秋の田のかりほの庵の苫をあらみ  
わが衣手は露にぬれつつ  
(天智天皇)



人はいざ心もしらずふるさとは  
花ぞ昔の香ににほひける  
(紀貫之)



ちはやぶる神代もきかず竜田川  
からくれなゐに水くくるとは  
(在原業平朝臣)